



管内の教育

所報 77 号

- 主な内容
- 1 所長所感「東日本大震災から 10 年」
 - 2 今年度の学校訪問指導を振り返って
 - 3 各指定校事業の成果
 - 4 来年度の研修会等の予定及び学校訪問指導

出雲教育事務所
令和 3 年 3 月

東日本大震災から 10 年

出雲教育事務所 所長 大場 尚樹



新型コロナウイルス感染症の対応に追われた令和 2 年度が終わろうとしています。管内の市町教育委員会、各小・中学校の校長先生をはじめ先生方、職員の皆さまには大変なご苦労があったことと推察いたします。コロナ禍にあり、児童生徒や職員の命を守るという大前提のなか、児童生徒一人ひとりの学びの保障や心身の伸長を目指しながら、あわせて児童生徒にとって思い出に残るかけがえのない 1 年となるよう、適切な判断のもと精一杯の愛情で日々の教育実践を積み重ねていただいたことに、敬意を表し、深く感謝を申しあげます。ありがとうございました。

さて、卒業式が近づくこの時期になると毎年決まっています。10 年前の平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災。当時、テレビで繰り返し映し出される津波の映像は、まさに、言葉を失う衝撃でした。津波をはじめとするその被害は、死者・行方不明者が 1 万 8 千人を超える大震災です。

今から 1 年余り前の令和元年 12 月、東日本大震災で被災した宮城県石巻市を初めて訪れる機会がありました。児童 74 名、教職員 10 名が犠牲となった大川小学校は、津波にすべてが飲み込まれ、何もない荒地の中に震災遺構としてぽつんと建っていました。そして、校舎のあちこちに当時の津波の爪痕が残っていました。濁流で粉々になった外壁。ぼろぼろに崩れ落ちた 1 階教室の天井。地震発生の 51 分後、15 時 37 分で止まったままの時計。2 階教室の天井に残る高さ 8.6 m の津波の跡。巨大な津波の力で湾曲した体育館への渡り廊下等々。実際に現地を自分の目で見ることで改めて自然の脅威と人間の無力さを痛感しました。校庭の横の荒地で一人の男性がショベルカーを使って作業をされていました。何か建設されるのかと、案内いただいていた“小さな命の意味を考える会”代

表の佐藤敏郎さんに尋ねたところ、「被災者の家族の方です。今なお、行方不明の児童が 4 名います。その家族の方は、毎日、ああやって捜索活動を続けていらっしゃいます。」優しくそっと土を掘り返し、ショベルカーから降り、自らの手で土の中を確認する。手が凍えるほどの寒風吹く中、それを懸命に繰り返していらっしゃいました。私はしばらく動くことができず、溢れる涙をこらえることができませんでした。

私たち日本人は、この震災から生き方や価値観を根底から問い直されました。家族や友だちがいて、学校があって、何気ない日常があって、無事卒業式が迎えられることなど、それまで当たり前だったことが、どんなにありがたく幸せなことかを思い知らされました。私たちに出来ることは、震災を風化させないこと、そして、かけがえのない自他の命を大切にすることだと思っています。

昨年度まで勤めていた中学校で、卒業式直前の 1 時間をいただいて卒業生たちに震災の映像や現地の写真を見てもらいながら、「かけがえのない自分を精一杯大切にしてほしい。同時に、周りの人も自分と同じ、かけがえのない尊い命であることを忘れないでください。」と訴えました。すべての生徒が真っ直ぐに、真剣な眼差しで聞いてくれました。それぞれの生徒の心に届き、これからの人生も力強くたくましく生き抜いてくれると信じています。

例年とは違う日常を余儀なくされた一年でした。だからこそ、これまで以上の工夫や情熱が詰まった毎日だったことと思います。先生方、職員の皆さん、ご家族や地域の方々など、関係の皆さまからのたくさんの愛情が注がれ育った管内の子どもたち。その一人ひとりの命が輝き続け、コロナに負けず、笑顔溢れる人生が待っていることを祈ります。

今年度の学校訪問指導を振り返って

今年度も様々な学校訪問指導で管内の小・中学校を訪問させていただきました。各学校より回答していただいたアンケート結果及び学校訪問時の様子を基に振り返ります。

継続的支援の充実に向けて

従来の「継続型学校訪問指導」と「教科等指導に係る申請学校訪問指導」を統合して新設した「⑦研究推進・教科等指導に係る学校訪問指導」は、約90%の学校から「とても良い」と高い評価をいただきました。学校訪問指導の当日だけでなく、授業構想や指導案作成、校内研修など継続的に支援できたこと、研究推進の方向性や成果と課題を共有できたこと等が要因として挙げられます。来年度も継続的に学校を支援できる体制を整えていきたいと考えています。

人材育成の充実に向けて

例年に比べて「③フォローアップ研修に係る学校訪問指導」と「④教職経験6年目研修、中堅教諭等資質向上研修に係る学校訪問指導」の申請が増えました。「6年目研修の研究協議に全員が参加することで、有意義な研修の機会になりました。」といった感想からうかがえるように、学校訪問指導を通して人材育成を図りたい、OJTと併せて研修をより充実させたいという意欲の表れだと捉えています。一方で「⑤講師を対象とした学校訪問指導」の申請は少ないので、経験年数の少ない先生方が、気軽に日々の授業づくりについて相談できる体制をつくっていききたいと考えています。

児童生徒に対する支援体制や支援方法を具体的にイメージすることができました。

事前に相談することができたので、訪問当日は知りたい内容に合わせて助言をしてもらえて良かったです。



特別支援学級及び通級指導教室を初めて担当される先生方に関わる学校訪問指導は、全小・中学校の約3分の1にあたる28校で実施しました。「⑩特別支援学級、通級指導教室新任担当教員に係る学校訪問指導」では、約82%の学校から「とても良い」という評価をいただき、併せて左記のような感想をいただきました。事前に先生方の困り感やニーズを把握することにより、具体化・焦点化を図った助言・支援につながったと考えています。

事例や児童生徒の具体的な姿を基に改善のポイント示していただき、今後の見通しにつながりました。

「指導と評価の一体化」を図った授業の在り方について指導していただき、参考になりました。



新教育課程をふまえた支援の充実に向けて

小学校は、今年度から新学習指導要領が全面実施となりました。そのため、今年度は小学校を中心に新教育課程をふまえた授業づくりや学習評価、学級経営、児童生徒支援等について周知を図り、先生方と一緒に考えることができました。右記のような感想をいただいています。来年度は全面実施となる中学校を中心に、小学校も引き続き新教育課程をふまえた内容の周知・定着を図っていこうと考えています。

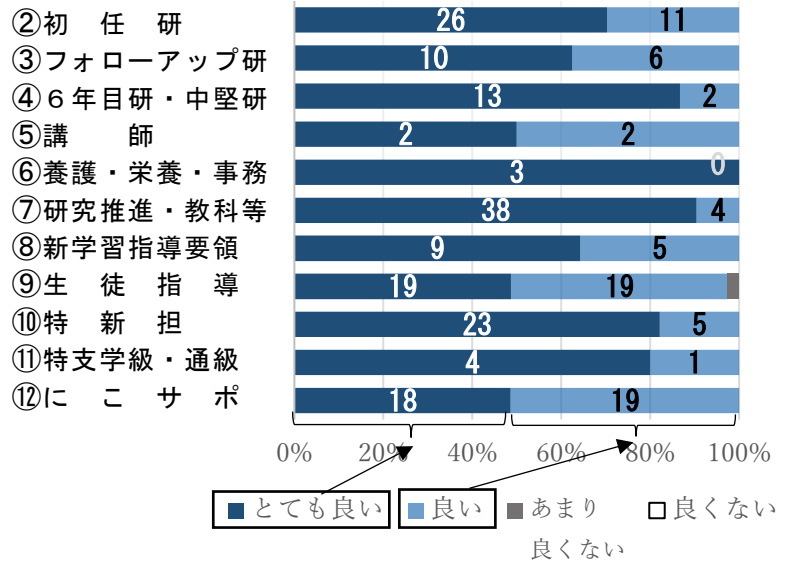
多面的な視点による支援の充実に向けて

特別支援教育やふるさと教育に係る学校訪問指導において、複数の指導主事が同行し、協議及び助言をした学校がいくつかありました。より専門的・多面的な視点で授業づくりや児童生徒支援の在り方について共有することができました。今後の訪問の在り方を探る上でのヒントとなりました。

上記の振り返りをふまえ、別頁のように「令和3年度学校訪問指導の重点」を設定しました。次年度も各訪問の趣旨を理解していただくとともに、有意義だったと感じていただける学校訪問指導になるよう努めていきます。

訪問指導別評価

(数値は訪問した学校数)



各指定校事業の成果

令和2年度 複式教育推進指定校事業より

出雲市立上津小学校

島根県教育委員会では、複式学級における効果的な学年別指導について研究を深めていただけるよう、県内の3校を指定校として複式教育推進指定校事業を実施しています。令和2年度は、出雲市立上津小学校に指定を受けていただき、1月28日には中学年算数科の授業を通して今年度の取組の成果を発表していただきました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、他校の先生方の参加をお断りしましたので、そのときの授業の様子をお伝えします。

(1) 何をするのかを明確にして児童が学習に取り組めるよう、めあての設定を工夫する。



4年生は、L字型の面積の求め方を考える学習に取り組みました。教師は、図形をどのように観察すれば既習の求積公式が使えるようになるかを児童にしっかり考えさせたいと願い、「習った公式を使って考えよう」をめあてとして提示されました。長方形を見つけることをしっかりと意識することができた児童は、二つの長方形に分割する方法だけでなく、長方形に変形して面積を求める方法もたくさん見つけ出していました。

(2) 主体的で対話的な学びを目指し、話合いの進め方を工夫する。

上津小学校では、学年の発達段階に即して「ガイド役」の目指す姿を定め、日々の指導に努めておられます。3年生は二人しかいないため、児童が自分たちで話合いを進めることを大切にしつつも、教師が違う視点を投げかけて揺さぶりをかけることなども想定しながら授業を展開していきました。4年生は、ガイド役の児童が互いの考えをつなげていくことをしっかりと意識し、解決できず困っている友達、まだ途中までしか考えられなかった友達の思いを大切にしながら話合いを進めていました。

学校図書館活用教育の充実を目指して ～「学校図書館活用教育研究事業」より～ 奥出雲町立三成小学校・奥出雲町立阿井小学校

島根県教育委員会では、平成26年度から学校図書館を活用した授業実践に関する研究推進に取り組んでいます。研究の成果を広く公開することにより、学校図書館活用教育を県内に普及し、児童生徒の情報活用能力及び思考力・判断力・表現力等の育成を図ることを目的としています。令和2年度は奥出雲町立三成小学校と奥出雲町立阿井小学校が本事業の指定を受け、読書環境の整備や読書習慣の定着を図っていただきました。7月と10月には授業を公開していただきました。

【今年度の研究テーマ】

<三成小学校>

自分の思いや考えを主体的に伝え合う子どもの育成
～言語活動の充実を図る学校図書館の活用～

<阿井小学校>

自分の考えを主体的にまとめ、伝えようとする児童の育成
～「情報活用実践力」の向上を目指した授業づくり～

【授業や取組における成果の概要】

1 必要感・効果・活用意欲の実感

課題解決のゴールに向かって言語活動を進めていく中で、児童が「～の情報が欲しい。」「～の情報をうまく使えた。」「今後も～のときに使いたい。」と図書館活用の必要感や効果、今後の活用意欲を実感できる授業構想や支援に工夫が見られました。

2 習得から活用・発揮の場へ

教科書も情報の一つとして捉え、「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」授業構想を意識して取り組んでいます。習得した語彙力や読解力、情報活用能力を活用・発揮しながら意欲的に言語活動（パンフレット・詩・俳句・説明文・報告文・エピソード作文の作成等）に取り組む姿が見られました。

3 情報や思考の可視化・操作化・共有化

付せんやワークシート、思考ツール、教師が作成したモデル等を活用して、目に見えにくい情報や児童同士の思考の可視化・操作化・共有化を図っていました。情報活用の過程における思考・判断・表現を充実させる有効な手立てとなっていました。

4 多様な連携の充実

授業者・司書教諭・学校司書等が綿密な打合せを基に役割分担をして、授業構想や図書資料の準備をしています。必要に応じて県立図書館や奥出雲町内の図書館・学校から取り寄せるなど、調べ学習における図書資料を充実させていました。児童の主体的な学びにつながっています。

令和元・2年度 島根県人権教育研究指定校より

出雲市立塩冶小学校

本事業は、人権意識を培うための学校教育の在り方について、幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実をめざしています。

(1) 研究主題

「自他を大切にし、認め合い、
仲間とともに高め合う子どもの育成」

(2) 研究仮説と成果

研究仮説①

人権に関わる知識理解を深め、人権感覚を高める授業づくりを工夫するとともに、「一人一人が大切にされ、安心して過ごせる仲間づくりや集団づくり」に努めれば、自分の大切さを自覚し、相手の立場や思いを尊重しながら、よりよい関わり方ができる子どもが育つであろう。

<仮説①に基づく取組の成果>

ペア・グループでの対話活動や縦割り班活動、「だんだんタイム(構成的グループエンカウンター)」では、児童同士の温かい心の交流や進んで関わり合おうとする姿が見られた。様々な取組を通して、相手の思いを尊重しながら、より良好な関わり方をしようとする児童の姿が見られるようになった。

研究仮説②

「深まりのある伝え合い活動」の手立てを工夫して授業や活動を展開すれば、相手の思いをしっかりと受け止め、自分の思いを自信をもって伝えるとともに、仲間と関わり合いながら自分の考えを高めることのできる子どもが育つであろう。

<仮説②に基づく取組の成果>

全ての教科等で「対話的な学び」を意識した授業展開を行うように努めた。意識調査では「自分の意見をしっかりと聞いてもらっている」と感じている児童が増加し、自分の思いや考えを相手に伝え、相手の意見に耳を傾けながら思考する姿が一層見られるようになった。

研究仮説③

人権意識を高める校内環境(ひと・もの・こと)を整えるとともに、学校・家庭・地域の連携づくりに努めることによって、自他を大切にし、互いに認め合い、仲間とともに高め合おうとする子どもを育成する素地が育つであろう。

<仮説③に基づく取組の成果>

日常的な挨拶言葉や会話文を多言語で紹介した掲示物は、様々な国にルーツのある児童同士が親睦や理解を深め、お互いの文化を尊重する意識を高めることにつながった。

教職員一人一人が「隠れたカリキュラム」の一員としての自分を自覚し、自己を見つめ直し、意識を高めることができた。



来年度の行事
予定表に入れて
おいてください。

島根県教育委員会による研修会等の予定

研修会等	会 場	期 日
教育施策説明会 (小・中学校校長対象)	出雲合同庁舎	令和3年 5月21日 (金)
小・中学校等校長学校経営実践研修	出雲合同庁舎ほか	〃 6月 9日 (水)
小・中学校等教頭学校運営実践研修	出雲合同庁舎ほか	〃 10月 5日 (火)

令和3年度 出雲教育事務所学校訪問指導の重点について

令和3年度の学校訪問指導は、先生方がより活用しやすいものとなるよう、次のような重点を掲げて実施していきます。

「学校のニーズに応じた学校訪問指導の充実」をめざして

重点1

新教育課程をふまえた授業づくりの応援をします。

- 「育成すべき資質・能力を明確にした授業」「主体的・対話的で深い学びの視点による授業」について、重点を絞った分かりやすい助言に努めます。
- 「指導と評価の一体化」に係る研修を実施します。

重点2

経験年数の少ない先生方の授業づくりを応援します。

- 日々の授業づくりの相談などに活用できる「授業づくり支援」を新設します。
- 特別支援教育を担当される先生のニーズに寄り添った支援の充実を図ります。

重点3

先生方や子どもたちを多面的な視点から支援します。

- 学校の求めにより、学力育成、生徒指導、特別支援教育など複数の指導主事が連携して訪問できるようにします。
- 指導主事と社会教育主事が連携し、地域に関わる学習の充実へ向けたお手伝いをします。

お願い

- ・詳細については、3月下旬に送付します「学校訪問指導実施要項」でご確認ください。
- ・指導案づくりの相談、特別支援学級の教育課程についての相談などは、メールや電話で行うこともできます。年間を通じて、気軽にご相談ください。
- ・ご不明な点は、出雲教育事務所（電話 0853-30-5682）までお問い合わせください。